

想定し得る最大規模の風水害等に係る
被害想定調査

名古屋市防災会議風水害等災害対策部会

令和6年3月

目次

1. 被害想定調査の概要	1
1.1 調査の目的	1
1.2 留意事項	1
1.3 想定ケースと前提条件	2
2. ハザードの状況	3
3. 被害想定調査の結果	6
<建物被害予測>	6
<人的被害予測>	6
<ライフライン被害予測>	6
<交通施設被害予測>	8
<生活支障等の予測>	9
<その他の予測>	9
【参考】	10
<建物被害予測の区別集計>	10
<人的被害予測の区別集計>	11
<その他のハザードの状況と被害想定結果>	13
<被害想定調査の検討体制>	19
【補足資料】	19
<人的被害予測における被災イメージ>	19

1. 被害想定調査の概要

1.1 調査の目的

近年、全国各地で集中豪雨等による浸水被害が激甚化・頻発化しています。水防法改正（平成27年）に伴い、想定し得る最大規模の洪水・内水氾濫・高潮による浸水想定区域図等が順次、国、愛知県等から公表されました。名古屋市では、それらを反映した「なごやハザードマップ防災ガイドブック（以下「ハザードマップ」）」が令和4年6月に市公式ウェブサイトにて公表されるとともに、令和5年3月には市内全世帯に配布されました。

本被害想定は、名古屋市の防災・減災対策の推進を図るため、国の動向や名古屋市防災会議専門委員、関係機関等の意見を踏まえながら、想定し得る最大規模（1,000年に1度程度）の風水害（洪水・内水氾濫・高潮）等が発生した場合の被害に係る様相等について調査を実施したものです。

1.2 留意事項

- ・ 想定した風水害の規模についてはあくまでも想定であり、想定通りの災害が必ずしも発生するとは限りません。
- ・ 調査結果はあくまで過去の実績等を踏まえて予測したものであり、実際の発災時には被害の状況は想定と大きく異なる可能性があります。
- ・ 想定した風水害以外にも、名古屋市域に甚大な被害を及ぼす災害が発生する可能性があります。
- ・ 被害の予測に当たっては、過去国内で発生した風水害の被災事例等から導かれた手法等を基にしています。今後の調査や研究成果、災害の実績によって想定手法の修正や新たな想定手法が出てくる可能性があります。
- ・ 被害想定は、災害規模、建物分布、人口分布、予測手法など、さまざまな要素をかけた結果であり、条件が変わると被害は変化します。
- ・ 被害想定は建物データと人口データについて以下の通り作成しました。
建物データ：令和3年度建物現況調査による建物ポリゴンデータに対し、固定資産台帳データ・公共施設データを突合し、1棟ごとに構造等の属性を付与して作成しました。
人口データ：スマートフォンの位置情報ビッグデータをベースに125mメッシュ単位で時間帯別の人口を推計した人口統計データ（あさひる統計）や、社会生活基本調査等から時間帯別の人口分布を推計し、メッシュに属する建物ポリゴンデータ等に付与して作成しました。
- ・ 本被害想定は風水害時の想定であり、発災前から気象情報や防災情報が発出され、市民が避難行動をとるなど様々な行動が考えられますが、それらは考慮せず、想定した発災時間帯の人口分布において被災した場合の結果を示しています。
- ・ 被害想定項目について、可能な限り定量的に評価するとともに、定量的に評価が難しい項目については、過去の被害実績等を参考に被害様相を示すなど定性的に評価しました。

1.3 想定ケースと前提条件

本被害想定における想定ケースは、名古屋市の各ハザードマップを想定ケースとし、想定時間については、想定されるハザードの発生要因や特性、市民の生活行動を踏まえたほか、災害をイメージしやすいように本市における過去の大規模な浸水被害の実態も考慮し、想定される被害様相の異なる2種類を設定しました。

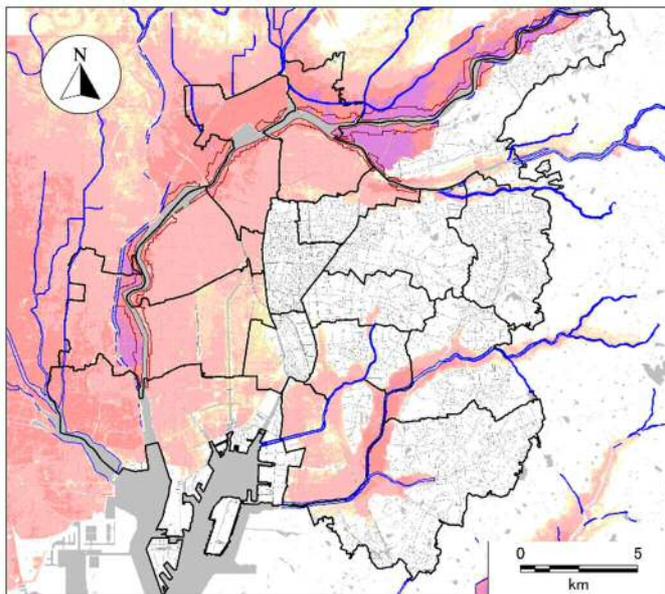
ハザードの発生要因・特性、市民の生活行動など	想定時間
<ul style="list-style-type: none"> 洪水、内水氾濫、土砂災害などは、梅雨前線や台風、秋雨前線の影響、地形の効果により、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより起きる集中豪雨などにより災害が発生することが多い。 また、地上付近の気温が特に上がる午後から夕方にかけて、大気の状態が不安定になりやすいため積乱雲が発達しやすく、集中豪雨・局地的大雨が発生する状況になりやすい。 過去に名古屋市で大規模な浸水被害のあった東海豪雨では、夕方から記録的な雨が降り、明け方まで激しい雨が続いた。 帰宅ラッシュ時に近い状況であり、様々な交通手段による移動者が多く、屋外での被害が大きくなるなど、多様な被害様相が見られる。 	平日夕方 (18時頃)
<ul style="list-style-type: none"> 高潮は、台風に伴う暴風による「吹き寄せ効果」と気圧低下による「吸い上げ効果」により海面が高くなり災害が発生する。 台風の到来時間は事前にある程度の予測が可能なことから、鉄道の計画運休をはじめ休業や休校など外出抑止が想定され、通常の社会生活とは異なる可能性がある。 過去に名古屋市で大規模な高潮被害のあった伊勢湾台風では、夜遅くに名古屋港で最高潮位を記録し歴史的な高潮となった。 夜間に災害が発生した場合、見通しが悪く避難が難しい状況であり状況が悪化しても避難行動がしにくく、自宅内での被害が大きくなる。 	平日深夜 (3時頃)

区分	想定ケース	想定時間
(1) 洪水	洪水ハザードマップ 各河川の破堤点からの浸水想定ケース ^{*1}	平日夕方 (18時頃)
(2) 内水氾濫	内水氾濫ハザードマップ	平日夕方 (18時頃)
(3) 高潮	高潮ハザードマップ	平日深夜 (3時頃)
(4) ため池決壊 ^{*1}	ため池ハザードマップ	平日夕方 (18時頃)
(5) 土砂災害 ^{*1}	内水氾濫ハザードマップ (内の土砂災害(特別)警戒区域)	平日夕方 (18時頃)

^{*1}【参考】＜その他のハザードの状況と被害想定結果＞(p13～18)に掲載。

2. ハザードの状況

(1) 洪水

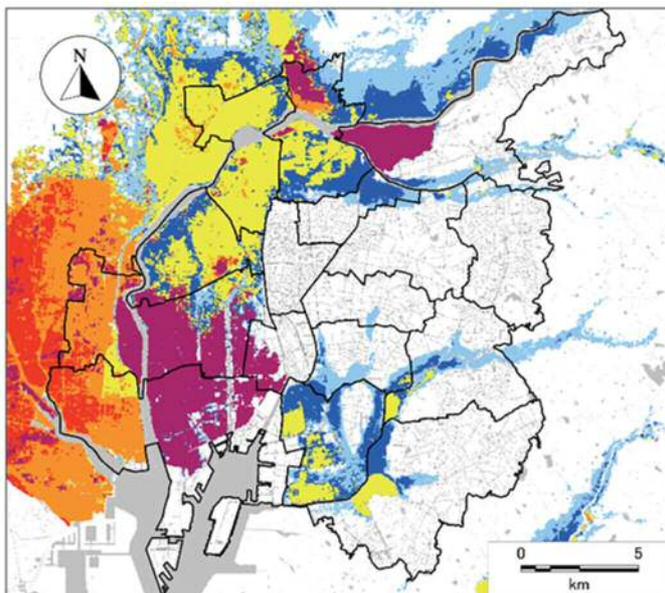


浸水深	面積(km ²)
10.0m 以上	0
5.0m～10.0m 未満	約 7
3.0m～5.0m 未満	約 30
1.0m～3.0m 未満	約 82
0.5m～1.0m 未満	約 19
0.3m～0.5m 未満	約 5
0.3m 未満	約 5

※面積は名古屋市域の浸水面積

凡例	
	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)

図 洪水ハザードマップの浸水分布図



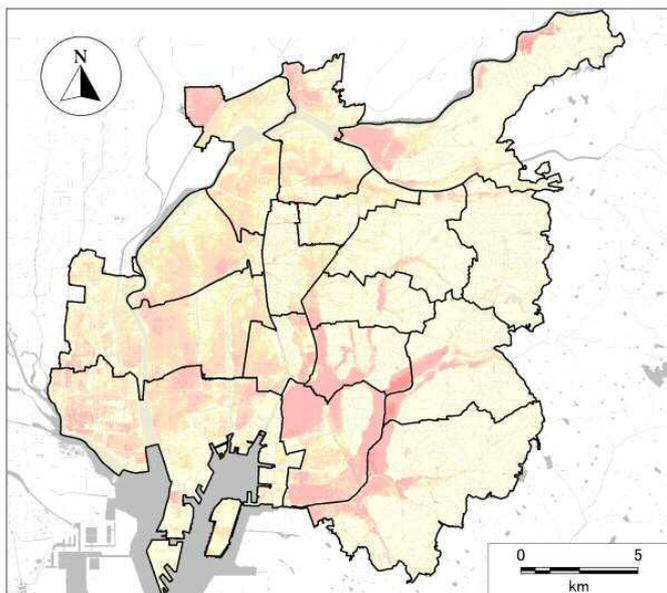
浸水深 0.5m以上が継続する時間	面積(km ²)
12 時間未満	約 21
12 時間～1 日未満	約 27
1 日～3 日未満	約 38
3 日～1 週間未満	約 15
1 週間～2 週間未満	約 5
2 週間以上	約 37

※面積は名古屋市域の浸水継続時間面積

図 洪水ハザードマップの浸水継続時間分布図

- ・ 図に示す浸水などは、想定し得る最大規模の降雨により、河川が氾濫した場合に想定される浸水区域、浸水深および浸水継続時間などをシミュレーションにより算出したものです。
- ・ 浸水区域、浸水深および浸水継続時間などはあくまで想定であり、様々な条件によって、想定より大きくなる場合もあります。
- ・ この図は、国土交通省または愛知県が公表した、各河川の洪水浸水想定区域図、浸水予想図を基に浸水区域を重ね合わせ、作成しています。浸水区域が重なる場合は、浸水深については深い方、浸水継続時間については長い方を表示しています。
- ・ この図は、平成 27・28 年作成の都市計画基本図を使用しています。なお、必要に応じて作成後の状況を修正しています。

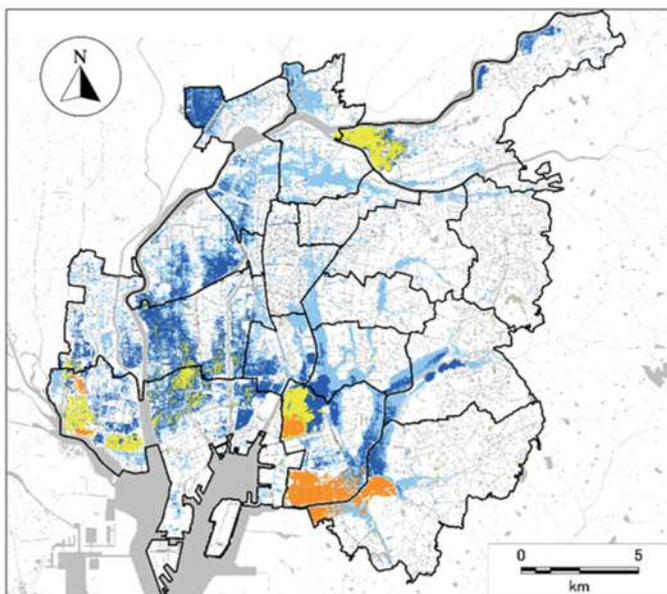
(2) 内水氾濫



浸水深	面積(km ²)
10.0m 以上	0
5.0m～10.0m 未満	0
3.0m～5.0m 未満	約 1
1.0m～3.0m 未満	約 32
0.5m～1.0m 未満	約 53
0.3m～0.5m 未満	約 31
0.3m 未満	約 209

※面積は名古屋市の浸水面積

図 内水氾濫ハザードマップの浸水分布図



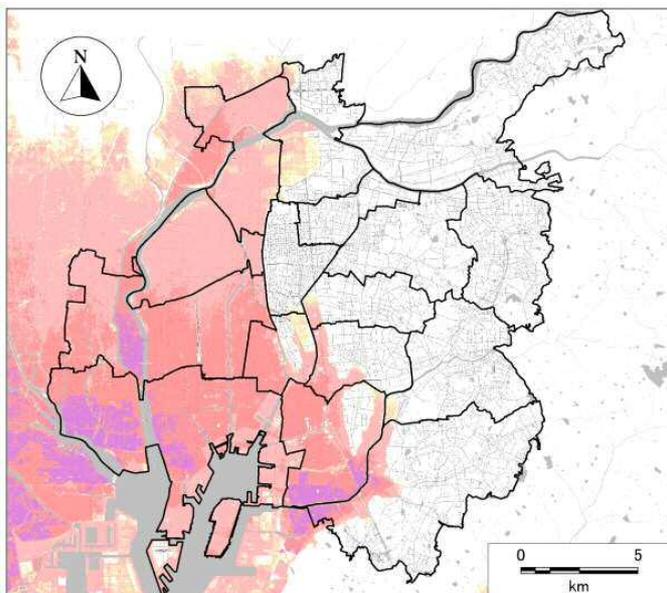
浸水深 0.5m以上が継続する時間	面積(km ²)
12 時間未満	約 42
12 時間～1 日未満	約 25
1 日～3 日未満	約 9
3 日以上	約 6

※面積は名古屋市の浸水継続時間面積

図 内水氾濫ハザードマップの浸水継続時間分布図

- ・図に示す浸水などは、令和 2 年度末の各施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨（156mm/h、836mm/24h）、下水道・中小河川（洪水ハザードマップで氾濫を想定していない河川）などが氾濫した場合に想定される浸水区域、浸水深および浸水継続時間をシミュレーションにより算出したものです。
- ・シミュレーションの実施にあたっては、河川水位の上昇に伴う排水ポンプの運転停止や樋門の閉鎖を考慮しています。
- ・浸水区域、浸水深および浸水継続時間はあくまで想定であり、様々な条件によって、想定より大きくなる場合もあります。
- ・この図は、名古屋市が実施したシミュレーション結果を基に作成しています。
- ・この図は、平成 27・28 年作成の都市計画基本図を使用しています。なお、必要に応じて作成後の状況を修正しています。

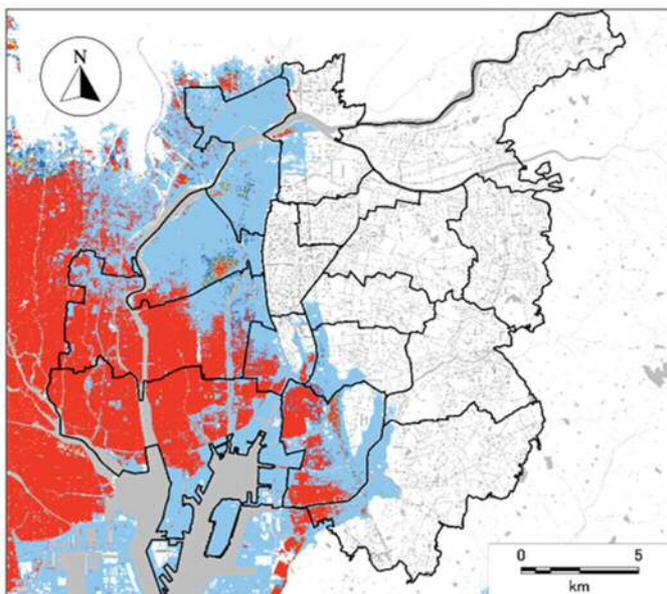
(3) 高潮



浸水深		面積(km ²)
■	10.0m 以上	0
■	5.0m～10.0m 未満	約 11
■	3.0m～5.0m 未満	約 54
■	1.0m～3.0m 未満	約 59
■	0.5m～1.0m 未満	約 6
■	0.3m～0.5m 未満	約 2
■	0.3m 未満	約 2

※面積は名古屋市域の浸水面積

図 高潮ハザードマップの浸水分布図



浸水深 0.5m以上が継続する時間	面積(km ²)	
■	12 時間未満	約 77
■	12 時間～1 日未満	約 2
■	1 日～3 日未満	約 1
■	3 日～1 週間未満	0
■	1 週間以上	約 50

※面積は名古屋市域の浸水継続時間面積

図 高潮ハザードマップの浸水継続時間分布図

- ・ 図に示す浸水などは、日本に上陸した既往最大台風である室戸台風規模の気圧を有する台風（中心気圧 910hPa、半径 75km、速度 73km/h）が、満潮時に三河湾・伊勢湾岸に最も大きな影響を与える経路を通過することに伴う高潮により、氾濫が発生した場合に想定される浸水区域、浸水深および浸水継続時間をシミュレーションにより算出したものです。
- ・ 浸水区域、浸水深および浸水継続時間はあくまで想定であり、様々な条件によって、想定より大きくなる場合もあります。
- ・ この図は、愛知県が令和 3 年 6 月に公表した、高潮浸水想定区域図を基に作成しています。
- ・ この図は、平成 27・28 年作成の都市計画基本図を使用しています。なお、必要に応じて作成後の状況を修正しています。

3. 被害想定調査の結果

<建物被害予測>

(単位：棟)

被災度	(1) 洪水	(2) 内水氾濫	(3) 高潮
全壊	約 83,000	約 7,300	約 111,000
全壊かつ流出	約 15,000	—	—
大規模半壊	約 118,000	約 46,000	約 86,000
中規模半壊	約 37,000	約 20,000	約 13,000
半壊	約 72,000	約 101,000	約 46,000
準半壊	約 34,000	約 23,000	約 27,000
一部損壊	約 26,000	約 90,000	約 16,000

<人的被害予測>

(単位：人)

被害区分	時系列	(1) 洪水	(2) 内水氾濫	(3) 高潮
直接被災者 ¹	直後	約 522,000	約 278,000	約 341,000
屋内安全確保者 ²		約 646,000	約 400,000	約 527,000
孤立者 ³	12 時間後	約 744,000	約 195,000	約 201,000
	1 日後	約 576,000	約 59,000	約 191,000
	3 日後	約 227,000	約 24,000	約 188,000
	1 週間後	約 183,000	—	約 187,000

※それぞれの被害区分については、【補足資料】<人的被害予測における被災イメージ> (p19) を参照。

<ライフライン被害予測>

(単位：人)

種別	(1) 洪水	(2) 内水氾濫	(3) 高潮
上水道	約 1,477,000	約 35,000	約 1,182,000
下水道	約 1,396,000	約 695,000	約 1,343,000
電力	約 1,244,000	約 597,000	約 935,000
通信（固定）	約 1,247,000	約 709,000	約 995,000
通信（携帯）	約 1,167,000	約 484,000	約 945,000
都市ガス	約 256,000	約 23,000	約 367,000
L P ガス	約 50,000	約 7,000	約 49,000

※発災直後～1 週間後における最大の影響人口を示す。

¹ 発災時、建物等において、浸水等による被害を受ける者

² 発災時、浸水する建物において、浸水しない階にいる者

³ 発災後以降、建物の浸水継続により、建物から身動きがとれない者

● ライフラインの復旧様相等について

種別	復旧様相等
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインの復旧については、浸水が解消された地域から順次被害状況の確認が始まり、必要な応急復旧が行われます。建物自体が被災した場合は復旧までに長期間を要することが想定されます。 ・ライフラインの供給施設が大きく被災した場合、作業に当たる人員確保や部品や資機材の調達が必要となり、本復旧には長時間を要することが想定されます。 ・一戸建て住宅やマンション、オフィスビルなどの需要側施設が浸水しライフラインの供給が停止する場合があります。また、浸水によって建物自体が被災する場合、浸水が解消されたとしても復旧には長期間を要することが想定されます。
上水道	<ul style="list-style-type: none"> ・浄水場や配水場が浸水による被害を受けた場合、部品や資機材の調達、専門職員の確保などが必要であり、浸水が解消された地域から順次被害状況の確認が行われ、必要な応急復旧が開始されます。 ・施設自体の被災が軽微な場合においては、人員確保状況に応じて順次復旧作業が行われます。 ・マンションやオフィスビルなど高層の建物では、停電の影響や浸水の影響で受水槽等に被害が発生し、上水道が利用できなくなる場合があります。
下水道	<ul style="list-style-type: none"> ・水処理センターや汚水中継ポンプ所が浸水による被害を受けた場合、部品や資機材の調達、専門職員の確保などが必要であり、浸水が解消された地域から順次被害状況の確認が行われ、必要な応急復旧が開始されます。 ・施設自体の被災が軽微な場合においては、人員確保状況に応じて順次復旧作業が行われます。
電力	<ul style="list-style-type: none"> ・変電所が浸水による被害を受けた場合、部品や資機材の調達、専門職員の確保などが必要であり、浸水が解消された地域から順次被害状況の確認が始まり、必要な応急復旧が行われます。 ・浸水した建物（被災が軽微）は、浸水が解消された後、各戸の漏電調査等、安全確認等を経た上で順次復旧が行われます。 ・電力復旧に向けた対応を推進していきますが、浸水の継続や土砂による立入が困難な地域は、継続的な停電が想定されます。
通信(固定)	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水が解消された地域から、順次被害状況の確認を行い、必要な応急復旧が行われます。 ・通信設備（施設及び線路区間）における被害状況の把握結果より、復旧資材及び要員の確保を行い、順次復旧作業が行われます。 ・通信設備の被害状況（通信施設ビルの浸水等）の規模によっては、復旧に時間を要する場合があります。
通信(携帯)	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯基地局が浸水による被害を受けた場合、部品や資機材の調達、専門職員の確保などが必要であり、浸水が解消された地域から順次被害状況の確認が始まり、修理対応と共に、移動電源車や、移動基地局車または周辺局からのエリアカバーによる通信確保など、必要な応急復旧が行われます。 ・本格復旧に向けた対応については、被害状況の規模によっては、必要な資機材等の調達等により、復旧に時間を要する場合があります。
都市ガス	<ul style="list-style-type: none"> ・都市ガス供給施設は、基本的には気密構造になっており、浸水による影響は受けにくく、電力を利用しないため停電による影響も受けないと考えられます。

<交通施設被害予測>

被災度		(1) 洪水	(2) 内水氾濫	(3) 高潮
道路 (緊急輸送道路) ※1	施設支障割合※2	約 7 割	約 8 割	約 5 割
鉄道	施設支障割合※2	約 8 割	約 8 割	約 7 割
鉄道の利用影響者 (人) ※3		約 520,000	約 684,000	約 429,000

※1 道路（緊急輸送道路）に高速道路は含まない。

※2 発災直後～1週間後において、施設が直接浸水等の被害を受ける最大の割合で、道路通行や鉄道運行の支障割合とは異なる。

※3 鉄道の利用影響者は、H27 大都市交通センサス調査結果における各路線の施設支障区間の各駅乗車人数を基に推計。

● 交通施設の復旧様相等について

種別	復旧様相等
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水によって通行支障となった道路について、巡視等による被害状況等の確認が行われ、通行障害が認められた道路の復旧作業が開始されます。 ・ 道路から水が引いた後は、放置された被災車や災害廃棄物等により復旧作業に当たる車両の通行を妨げて復旧作業開始に支障をきたす恐れがあります。 ・ 復旧に要する期間は、被災した道路に堆積した土砂・汚泥などの除去・清掃などに要する期間となり、被災した道路の状況によっては、長期間を要する可能性があります。 ・ 通行可能な道路にも見舞いの車等で大渋滞が発生し、被災者を支援する輸送トラック等が渋滞に巻き込まれ現場にたどり着かない恐れがあります。
鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水によって運行支障となった路線は、浸水が解消されたのちに運行再開に向けた復旧作業が進められます。 ・ 復旧に要する期間については、被災した路線や駅における土砂・汚泥などの除去・清掃、安全面の確認、資機材の調達などに時間を要する可能性があります。 ・ 鉄道施設等が浸水によって被災した場合は、復旧工事等が必要となることもあり、その場合は復旧に長期間を要する可能性があります。 ・ 路線が浸水による被害を受けた場合、部品や資機材の調達、専門職員の確保などが必要であり、浸水が解消された路線から順次被害状況の確認が行われ、必要な応急復旧が行われます。

<生活支障等の予測>

(単位：人)

種別		時系列	(1) 洪水	(2) 内水氾濫	(3) 高潮
避難者 ⁴	指定避難所 避難者	1日後	約 297,000	約 488,000	約 515,000
		3日後	約 645,000	約 523,000	約 518,000
		1週間後	約 724,000	約 561,000	約 635,000
物資不足者 ⁵	食料	1日後	—	—	—
		3日後	約 645,000	約 523,000	約 518,000
		1週間後	約 724,000	約 561,000	約 635,000
	飲料水	1日後	約 36,000	約 227,000	約 253,000
		3日後	約 645,000	約 523,000	約 518,000
		1週間後	約 724,000	約 561,000	約 635,000
	毛布	1日後	約 130,000	約 322,000	約 348,000
		3日後	約 479,000	約 357,000	約 351,000
		1週間後	約 558,000	約 395,000	約 468,000

<その他の予測>

(単位：万 t)

種別	(1) 洪水	(2) 内水氾濫	(3) 高潮
災害廃棄物	約 200	約 70	約 200

※建物被害予測結果を基に推計したものであり、生活ごみやし尿等は含まない。

⁴ 指定避難所へ避難する可能性がある者

⁵ 物資が不足する避難者

【参考】

＜建物被害予測の区別集計＞

表 (1) 洪水の区別建物被害予測結果

(単位：棟)

区	全壊	全壊かつ 流出	大規模 半壊	中規模 半壊	半壊	準半壊	一部損壊
東	約 1,100	約 90	約 1,200	約 200	約 900	約 800	約 600
北	約 11,000	約 2,700	約 17,000	約 2,900	約 6,700	約 4,700	約 2,700
西	約 21,000	約 1,800	約 12,000	約 200	約 6,300	約 5,700	約 1,300
中村	約 6,500	約 1,200	約 20,000	約 6,100	約 6,300	約 6,200	約 1,800
中	—	—	—	—	—	—	約 10
昭和	約 10	約 10	約 200	約 300	約 400	約 100	約 300
瑞穂	約 2,900	約 200	約 2,400	約 1,200	約 2,200	約 1,200	約 1,800
熱田	—	—	約 600	約 1,000	約 4,600	約 900	約 3,000
中川	約 12,000	約 3,200	約 24,000	約 8,100	約 18,000	約 5,200	約 3,400
港	約 5,900	約 100	約 15,000	約 8,100	約 8,700	約 2,400	約 1,900
南	約 4,200	約 200	約 12,000	約 6,600	約 7,900	約 3,600	約 2,100
守山	約 11,000	約 3,900	約 6,600	約 1,000	約 4,000	約 700	約 2,700
緑	約 3,100	約 300	約 3,400	約 700	約 2,200	約 700	約 1,500
名東	約 400	約 400	約 500	約 300	約 600	約 100	約 700
天白	約 2,000	約 300	約 2,800	約 600	約 2,100	約 1,000	約 1,600
計	約 83,000	約 15,000	約 118,000	約 37,000	約 72,000	約 34,000	約 26,000

※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

表 (2) 内水氾濫の区別建物被害予測結果

(単位：棟)

区	全壊	大規模 半壊	中規模 半壊	半壊	準半壊	一部損壊
千種	—	約 300	約 200	約 1,600	約 500	約 3,000
東	約 10	約 200	約 30	約 800	約 400	約 3,000
北	約 200	約 2,200	約 1,400	約 8,700	約 2,000	約 8,000
西	約 10	約 3,700	約 1,500	約 11,000	約 2,500	約 11,000
中村	—	約 1,800	約 1,100	約 13,000	約 2,900	約 14,000
中	—	約 200	約 20	約 700	約 500	約 2,800
昭和	約 30	約 700	約 500	約 1,700	約 800	約 2,300
瑞穂	約 1,900	約 3,300	約 2,200	約 3,200	約 1,900	約 1,600
熱田	—	約 1,300	約 600	約 6,300	約 1,500	約 3,900
中川	—	約 4,400	約 1,800	約 22,000	約 2,700	約 17,000
港	—	約 4,100	約 2,100	約 14,000	約 1,500	約 9,400
南	約 2,600	約 13,000	約 4,300	約 8,400	約 3,300	約 4,200
守山	約 900	約 4,200	約 2,100	約 4,300	約 800	約 6,500
緑	約 700	約 4,100	約 1,500	約 3,400	約 700	約 2,200
名東	—	約 300	約 100	約 600	約 100	約 900
天白	約 900	約 2,200	約 700	約 1,800	約 800	約 1,300
計	約 7,300	約 46,000	約 20,000	約 101,000	約 23,000	約 90,000

※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

表 (3) 高潮の区別建物被害予測結果

(単位：棟)

区	全壊	大規模 半壊	中規模 半壊	半壊	準半壊	一部損壊
千種	—	—	—	—	—	—
東	—	—	—	—	—	—
北	—	約 1,400	約 1,100	約 3,500	約 900	約 5,000
西	約 3,500	約 18,000	約 5,900	約 11,000	約 6,100	約 2,600
中村	約 12,000	約 18,000	約 2,300	約 6,500	約 6,300	約 1,800
中	—	約 10	—	約 10	約 10	約 300
昭和	—	約 300	約 200	約 400	約 300	約 600
瑞穂	約 2,000	約 2,200	約 600	約 1,400	約 1,300	約 900
熱田	約 6,500	約 2,000	約 300	約 2,300	約 2,000	約 1,300
中川	約 39,000	約 15,000	約 300	約 9,700	約 5,500	約 1,000
港	約 26,000	約 17,000	約 40	約 4,700	約 1,800	約 600
南	約 17,000	約 9,400	約 1,300	約 5,300	約 2,400	約 1,300
守山	—	—	—	—	—	—
緑	約 3,000	約 4,000	約 500	約 1,600	約 500	約 700
名東	—	—	—	—	—	—
天白	—	約 60	—	約 100	約 30	約 600
計	約 111,000	約 86,000	約 13,000	約 46,000	約 27,000	約 16,000

※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

＜人的被害予測の区別集計＞

表 (1) 洪水の区別人的被害予測結果

(単位：人)

区	直接被災者	屋内安全 確保者	孤立者			
	直後		12 時間後	1 日後	3 日後	1 週間後
千種	約 3,900	約 4,400	約 600	約 80	—	—
東	約 18,000	約 23,000	約 17,000	約 70	約 70	約 70
北	約 58,000	約 73,000	約 96,000	約 52,000	約 8,300	約 5,700
西	約 80,000	約 88,000	約 110,000	約 105,000	約 2,300	約 1,400
中村	約 99,000	約 152,000	約 187,000	約 156,000	約 10,000	約 8,000
中	約 20	—	—	—	—	—
昭和	約 700	約 1,300	—	—	—	—
瑞穂	約 14,000	約 21,000	約 5,900	約 600	—	—
熱田	約 7,100	約 11,000	約 14,000	約 14,000	約 14,000	約 14,000
中川	約 82,000	約 100,000	約 138,000	約 126,000	約 107,000	約 78,000
港	約 42,000	約 58,000	約 82,000	約 81,000	約 75,000	約 66,000
南	約 34,000	約 55,000	約 58,000	約 21,000	—	—
守山	約 47,000	約 18,000	約 14,000	約 10,000	約 10,000	約 10,000
緑	約 13,000	約 15,000	約 14,000	約 6,500	—	—
名東	約 4,000	約 3,900	約 400	約 200	—	—
天白	約 18,000	約 23,000	約 8,000	約 3,400	—	—
計	約 522,000	約 646,000	約 744,000	約 576,000	約 227,000	約 183,000

※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

表 (2) 内水氾濫の区別人的被害予測結果

(単位：人)

区	直接被災者	屋内安全確保者	孤立者		
	直後		12時間後	1日後	3日後
千種	約 5,500	約 7,100	約 90	—	—
東	約 8,100	約 7,900	約 500	—	—
北	約 16,000	約 28,000	約 700	約 400	—
西	約 30,000	約 46,000	約 15,000	約 200	—
中村	約 45,000	約 56,000	約 19,000	約 300	—
中	約 14,000	約 14,000	約 3,300	—	—
昭和	約 6,000	約 11,000	約 900	—	—
瑞穂	約 16,000	約 28,000	約 8,600	約 40	—
熱田	約 15,000	約 22,000	約 11,000	—	—
中川	約 32,000	約 47,000	約 34,000	約 3,300	—
港	約 22,000	約 31,000	約 26,000	約 4,800	約 20
南	約 28,000	約 50,000	約 43,000	約 28,000	約 16,000
守山	約 15,000	約 19,000	約 18,000	約 13,000	約 40
緑	約 13,000	約 17,000	約 11,000	約 8,200	約 8,100
名東	約 2,400	約 3,000	約 100	約 100	—
天白	約 10,000	約 15,000	約 2,800	—	—
計	約 278,000	約 400,000	約 195,000	約 59,000	約 24,000

※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

表 (3) 高潮の区別人的被害予測結果

(単位：人)

区	直接被災者	屋内安全確保者	孤立者			
	直後		12時間後	1日後	3日後	1週間後
千種	—	—	—	—	—	—
東	—	—	—	—	—	—
北	約 4,300	約 17,000	約 700	約 600	約 600	約 500
西	約 39,000	約 113,000	約 2,300	約 1,400	約 900	約 800
中村	約 39,000	約 117,000	約 11,000	約 8,300	約 6,900	約 6,400
中	約 200	約 400	—	—	—	—
昭和	約 700	約 2,500	—	—	—	—
瑞穂	約 6,100	約 22,000	約 700	約 200	約 200	約 200
熱田	約 15,000	約 29,000	約 12,000	約 11,000	約 11,000	約 11,000
中川	約 104,000	約 110,000	約 82,000	約 81,000	約 81,000	約 81,000
港	約 78,000	約 53,000	約 62,000	約 62,000	約 62,000	約 62,000
南	約 42,000	約 49,000	約 29,000	約 26,000	約 25,000	約 25,000
守山	—	—	—	—	—	—
緑	約 12,000	約 15,000	約 1,000	約 800	約 700	約 700
名東	—	—	—	—	—	—
天白	約 200	約 600	—	—	—	—
計	約 341,000	約 527,000	約 201,000	約 191,000	約 188,000	約 187,000

※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

<その他のハザードの状況と被害想定結果>

(1) 洪水 (各河川の破堤点からの浸水想定ケース)

洪水ハザードマップは、各河川の様々な破堤点からの浸水をすべて重ね合わせたものです。そのため本被害想定では、実際に起こり得る洪水の影響の参考例として、名古屋市域を流下する主要な河川である庄内川、新川、天白川において、特定の破堤点（破堤した場合に浸水面積が最大となる地点）を仮定して被害想定を行いました。

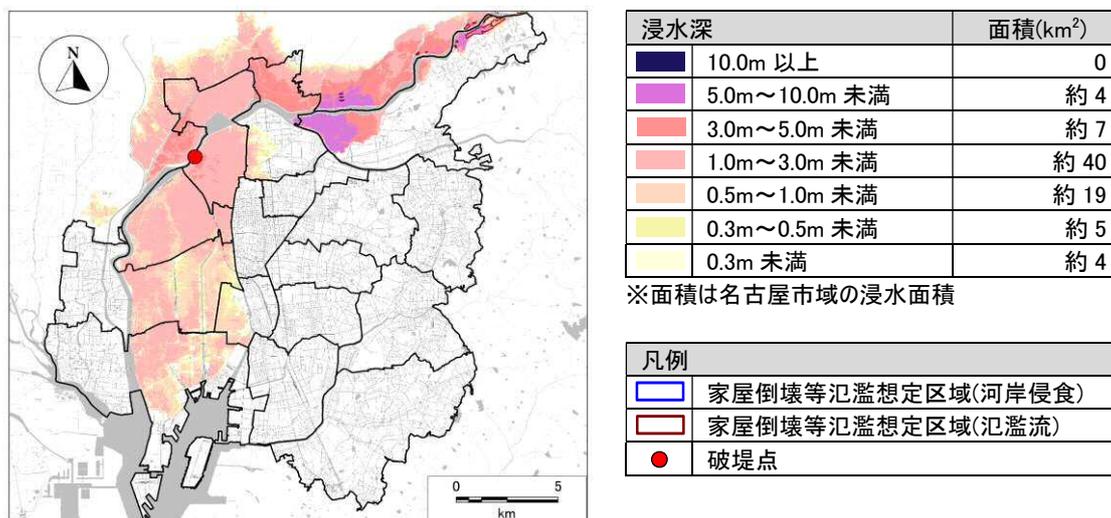


図 庄内川（左岸 15.0km を破堤点とした場合）の浸水分布図

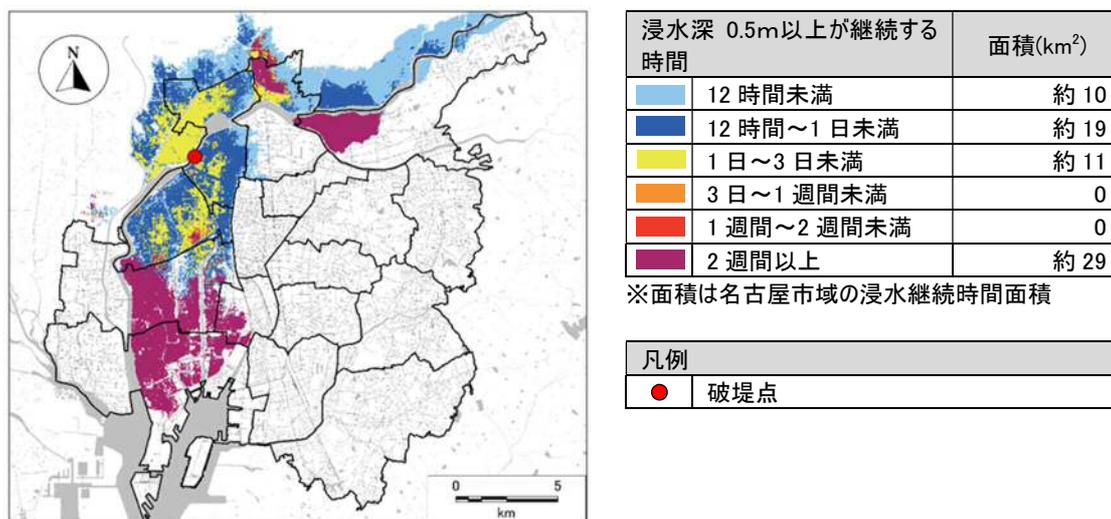
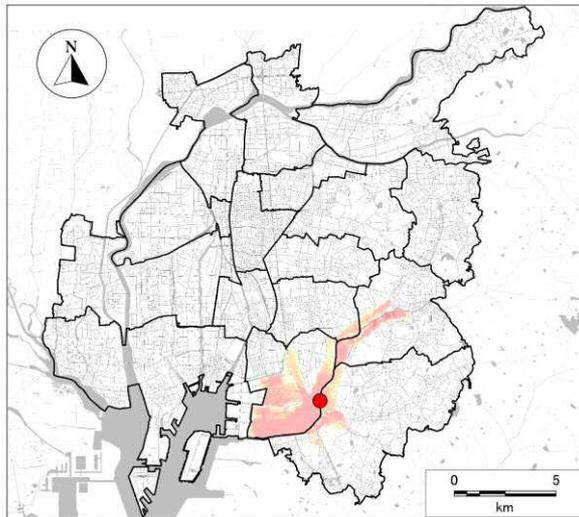


図 庄内川（左岸 15.0km を破堤点とした場合）の浸水継続時間分布図

- ・ 図に示す浸水などは、想定し得る最大規模の降雨により、庄内川の左岸等が氾濫した場合に想定される浸水区域、浸水深および浸水継続時間などをシミュレーションにより算出したものです。
- ・ 浸水区域、浸水深および浸水継続時間などはあくまで想定であり、様々な条件によって、想定より大きくなる場合もあります。
- ・ この図は、平成 27・28 年作成の都市計画基本図を使用しています。なお、必要に応じて作成後の状況を修正しています。

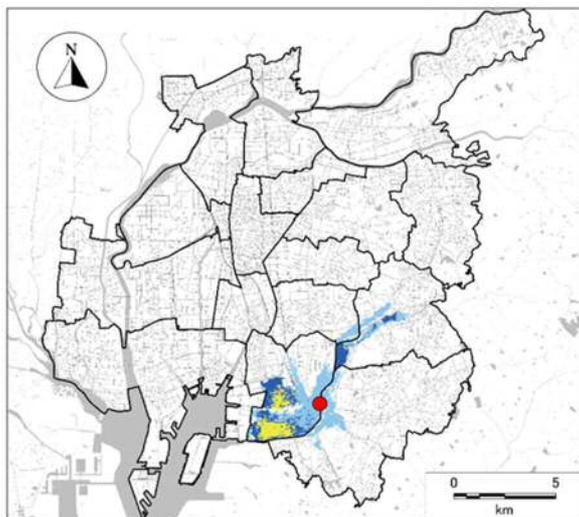


浸水深		面積(km ²)
■	10.0m 以上	0
■	5.0m～10.0m 未満	0
■	3.0m～5.0m 未満	0
■	1.0m～3.0m 未満	約 8
■	0.5m～1.0m 未満	約 4
■	0.3m～0.5m 未満	約 1
■	0.3m 未満	約 2

※面積は名古屋市の浸水面積

凡例	
□	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
□	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
●	破堤点

図 天白川（右岸 4.8km を破堤点とした場合）の浸水分布図



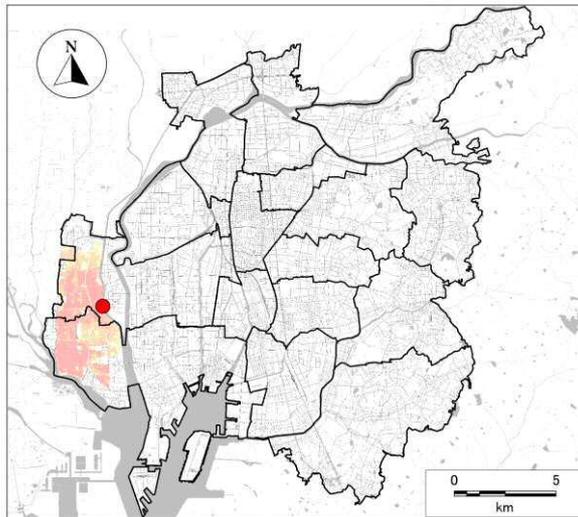
浸水深 0.5m以上が継続する時間	面積(km ²)	
■	12 時間未満	約 8
■	12 時間～1 日未満	約 3
■	1 日～3 日未満	約 2
■	3 日～1 週間未満	0
■	1 週間～2 週間未満	0
■	2 週間以上	0

※面積は名古屋市の浸水継続時間面積

凡例	
●	破堤点

図 天白川（右岸 4.8km を破堤点とした場合）の浸水継続時間分布図

- ・ 図に示す浸水などは、想定し得る最大規模の降雨により、天白川の右岸等が氾濫した場合に想定される浸水区域、浸水深および浸水継続時間などをシミュレーションにより算出したものです。
- ・ 浸水区域、浸水深および浸水継続時間などはあくまで想定であり、様々な条件によって、想定より大きくなる場合もあります。
- ・ この図は、平成 27・28 年作成の都市計画基本図を使用しています。なお、必要に応じて作成後の状況を修正しています。

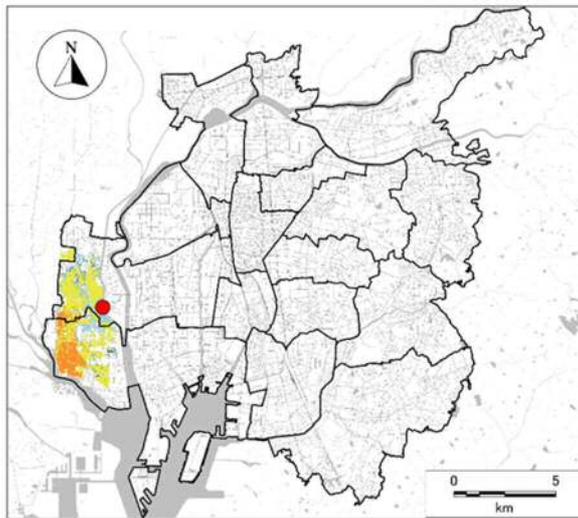


浸水深		面積(km ²)
■	10.0m 以上	0
■	5.0m～10.0m 未満	0
■	3.0m～5.0m 未満	0
■	1.0m～3.0m 未満	約 7
■	0.5m～1.0m 未満	約 4
■	0.3m～0.5m 未満	約 1
■	0.3m 未満	約 1

※面積は名古屋市の浸水面積

凡例	
□	家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)
□	家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)
●	破堤点

図 新川（右岸 5.2km を破堤点とした場合）の浸水分布図



浸水深 0.5m以上が継続する時間		面積(km ²)
■	12 時間未満	約 2
■	12 時間～1 日未満	0
■	1 日～3 日未満	約 7
■	3 日～1 週間未満	約 2
■	1 週間～2 週間未満	0
■	2 週間以上	0

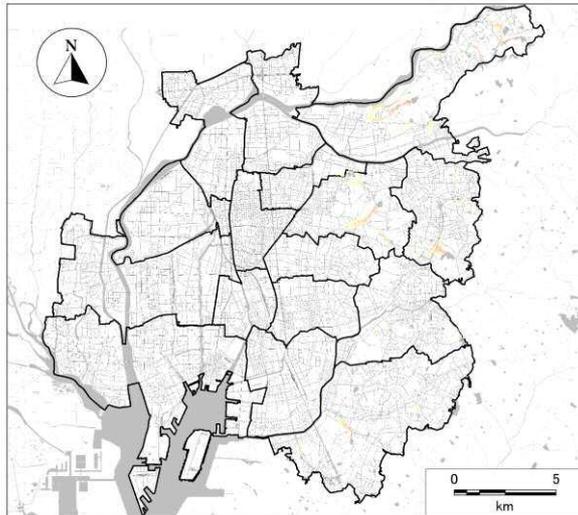
※面積は名古屋市の浸水継続時間面積

凡例	
●	破堤点

図 新川（右岸 5.2km を破堤点とした場合）の浸水継続時間分布図

- 図に示す浸水などは、想定し得る最大規模の降雨により、新川の右岸等が氾濫した場合に想定される浸水区域、浸水深および浸水継続時間などをシミュレーションにより算出したものです。
- 浸水区域、浸水深および浸水継続時間などはあくまで想定であり、様々な条件によって、想定より大きくなる場合もあります。
- この図は、平成 27・28 年作成の都市計画基本図を使用しています。なお、必要に応じて作成後の状況を修正しています。

(4) ため池決壊



浸水深	面積(km ²)
10.0m 以上	0
5.0m～10.0m 未満	0
3.0m～5.0m 未満	0
1.0m～3.0m 未満	0
0.5m～1.0m 未満	約 1
0.3m～0.5m 未満	約 1
0.3m 未満	約 2

※面積は名古屋市の浸水面積

図 ため池ハザードマップの浸水分布図

- ・ 図に示す浸水は、地震等の自然災害により、ため池の堤体に、万が一異常が生じ、決壊した場合に想定される浸水区域、浸水深をシミュレーションにより算出したものです。
- ・ 浸水区域は、ため池が平常時の水位において決壊した条件で算出しています。
- ・ 浸水区域、浸水深はあくまで想定であり、様々な条件によって、想定より大きくなる場合があります。
- ・ ここに表示されているため池がただちに危険であることを示すものではありません。
- ・ この図は、名古屋市が実施したシミュレーション結果を基に作成しています。
- ・ この図は、平成 27・28 年作成の都市計画基本図を使用しています。なお、必要に応じて作成後の状況を修正しています。

(5) 土砂災害

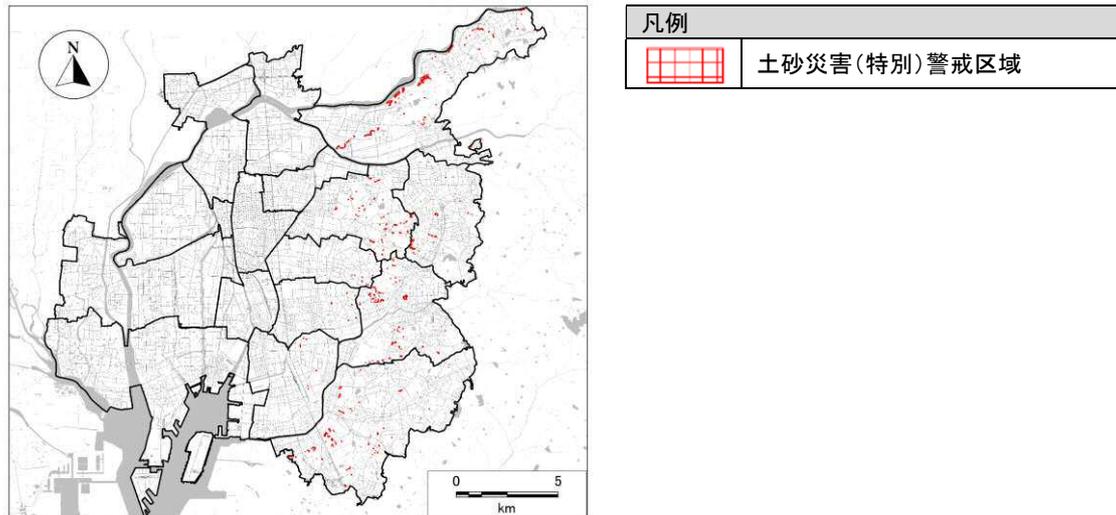


図 土砂災害（特別）警戒区域分布図

- 図に示す土砂災害（特別）警戒区域は、大雨や地震等により土砂災害が発生した場合に想定される区域を示したものです。
- 今回の被害想定では、想定し得る最大規模の降雨（156mm/h、836mm/24h）により、すべての土砂災害（特別）警戒区域において土砂災害が発生したものとしました。
- 土砂災害（特別）警戒区域は土砂災害防止法に基づく区域であり、様々な条件によって、区域外においても土砂災害が発生する可能性があります。
- この図は、平成 27・28 年作成の都市計画基本図を使用しています。なお、必要に応じて作成後の状況を修正しています。

○建物被害予測

(単位：棟)

被災度	(1) 洪水			(4) ため池 決壊	(5) 土砂災害
	庄内川 左岸 15.0km	天白川 右岸 4.8km	新川 右岸 5.2km		
全壊	約 26,000	約 500	約 60	約 20	約 500
全壊かつ流出	約 300	—	—	—	—
大規模半壊	約 49,000	約 11,000	約 4,300	約 400	約 90
中規模半壊	約 40,000	約 5,000	約 3,300	約 200	約 90
半壊	約 57,000	約 9,200	約 8,200	約 1,200	約 100
準半壊	約 21,000	約 2,600	約 600	約 300	約 200
一部損壊	約 22,000	約 7,700	約 5,300	約 5,700	約 400

○人的被害予測

(単位：人)

被害区分	時系列	(1) 洪水			(4) ため池 決壊	(5) 土砂災害
		庄内川 左岸 15.0km	天白川 右岸 4.8km	新川 右岸 5.2km		
直接被災者	直後	約 286,000	約 31,000	約 15,000	約 3,600	約 6,500
屋内安全確保者		約 404,000	約 49,000	約 21,000	約 6,200	—
孤立者	12 時間後	約 485,000	約 27,000	約 20,000	—	—
	1 日後	約 261,000	約 10,000	約 19,000	—	—
	3 日後	約 159,000	—	約 600	—	—
	1 週間後	約 158,000	—	—	—	—

<被害想定調査の検討体制>

今回の被害想定調査については、学識者で構成する「名古屋市防災会議風水害等災害対策部会」において調査審議し、部会の庶務については事務局（名古屋市）において実施しました。

氏名	所属・職名
荒木 裕子	京都府立大学 生命環境学部環境デザイン学科 准教授
田代 喬	名古屋大学減災連携研究センター 特任教授・副センター長
◎松尾 直規	中部大学 名誉教授
水谷 法美	名古屋大学大学院 教授
溝口 敦子	名城大学理工学部 社会基盤デザイン工学科 教授 東北大学 災害科学国際研究所 教授

◎部会長

<五十音順、敬称略>

【補足資料】

<人的被害予測における被災イメージ>

